



無病息災・災難消除を祈り

節分祭 齋行

二月三日、宗像観光協会(会長 小林正勝)との共催による「むなかた大節分祭」が行われ、「福」を授かるうとする多くの参拝者が参集し、寒さを感じさせない盛り上がりを見せた。節分とは季節の分かれ目を指す言葉で、立春・立夏・立秋・立冬の前日の事を言うが「立春をもって年とり」と言われる様に旧暦では立春を一年の始めとしており春の節分を特に重視していたことから、今では立春の前日のみを意味するようになった。

一月二十八日、氏子青年会奉仕により豆打式用の特設舞台が齋館前広場に設けられ、二月三



節分祭

平成ノ大造営

時満ちて
道ひらく

余滴

今月より当社第一宮・第三宮修復が着工する。造営事業の一環で、先には辺津宮本殿が修復され、後には沖津宮社殿や辺津宮末社等が修復予定である。これら神社における木造社殿においては、当時の建築様式を後世に伝える為、不朽した部材の取替えは最低限とし、なるべく在来の材料、工法を用いて修理を行う▼一方、伊勢の神宮においては式年遷宮をもって二十一年に一度社殿を建替え、すべてを新しく整える。これについては伝統技術を次の世代に継承する為であるという説がある▼社殿を残すことも、新しく建替えることも、我が国の伝統文化を継承するためである▼平成二十八年の新設住宅着工数は九十六万戸にもなる。木造ばかりではないだろうが、年間どれほどの材木がどのように使用されているのだろうか▼神宮の式年遷宮にて二十年使われた材は、全国の神社において修理用材として再利用され、朽果てるまで使われる▼かぎりある資源を有効に活用し、日本固有の木の文化を後世に引継ぐ役割を神社は担っているのである。(書)

日午前十一時、責任役員・氏子総代会・地元消防団また、ベトナム人女優でむなかた応援大使のグエン・ラン・フンさんが豆打式奉仕者を勤め、氏子評議員の方々が参列される中、節分祭が斎行された。葺

津宮司が災難消除・延命招福を祈念する祝詞を奏上、次に神職二名が拝殿の左右に分かれ「鳴弦の儀」を行い、一人は天に向け、もう一人は地に向け、矢を射る所作をし、弦を三度鳴らし天地の邪気を



グエン・ラン・フンさん (むなかた応援大使)



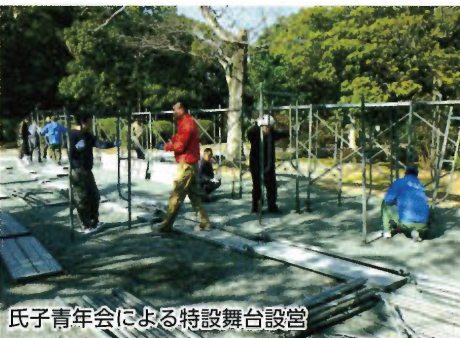
鳴弦の儀

祓い清めた。本殿での祭典後、神職・豆打式奉仕者は齋館前の特設舞台へ移動し、葦津権宮司が一年の無病息災を祈念し「鬼は外、福は内」の発声と共に福豆が撒かれた。今年の福を授かろうと集まった多くの参拝者は高宮参道に列をなし、一般参拝者の入場制限を行いながら、四回の豆撒きが行われ、黄色い声援が神苑にこだました。

本年も宗像観光協会を



豆打ち式を待つ参列者



氏子青年会による特設舞台設営

はじめ宗像大社氏子青年会・宗像歴史観光ボランティア等、ご協力を頂きました団体各位には衷心より御礼申し上げます。



巫女による福豆奉製作業



地元の園児等も参加

紀元祭 齋行

位式を挙げられた
年を元年とするこ
とに基づく我が国

二月十一日午前十一時、我が国の建国の事跡を祝う紀元祭が齋行された。

祭典では神武天皇御即位のこの日に際して、皇室の繁栄と国の隆昌を祈念する祝詞を奏上し、巫女による浦安舞が奉奏された。

今年には皇紀二千六百七十七年にあたる。皇紀とは神武天皇が橿原宮において(現在の奈良県)即



浦安舞奉奏

独自の紀元である。建国の歴史が神話の時代まで遡る国は、かつて他にもありましたが、それが連続と続いているのは、世界でも最も古い歴史を持つ日本だけである。

近年、西洋暦の表記の上で「平成」の元号表記をかつて記すのが主となっており、嘆かわしい限りである。

現在でもこの日には、全国各地で様々な神事、式典等の奉祝行事が行われているが、一方で反対の集会も目立って行われている。日本人はこの日の意義を各々充分に認識し、世界でも有数の文化・歴史を持つ我が国を世界に示し、また子孫に継承していかねばならない。

中津宮節分祭

澄み渡る晴天の中、筑前大島の中津宮で節分祭が齋行された。

午前十時より境内では祭典に先立ちぜんざいが振舞われ、島内の氏子が

参集し賑わいを見せる中、午前十一時、本殿にて節分祭が齋行された。豆打ち式では、神職・沖中両宮奉賛会会長・同翼賛会

会長・同敬神婦人部部長・責任役員をはじめ、本年還暦を迎えた年男・年女が、袴・千早・法被に身を包み、福豆・紅白餅・奉納頂いたお菓子を撒き、本殿周辺は熱気に包まれ各々福運を手にした。



豆打ち式

毎年お菓子を奉納頂いております、藤島聡様・松尾商店様・高島



本年の年男・年女



商店様、又もち米を奉納頂きました還暦同年講・古稀同年講の皆様には厚く御礼申し上げます。

第43回

文化財防火訓練

文化財防火デーの一月

二十六日、当社で四十三

回目の文化財防火訓練が

実施され、宗像大社自衛

消防団・宗像地区消防本

部・宗像市消防団(第二・

四・五・十一・合同分団・

女性消防団女性班)から

約百二十名が参加した。

今年も第二駐車場から

出火、重要文化財である

本殿・拝殿、また国宝や

重要文化財を収蔵展示す

る神宝館に火勢が迫る想

定で執り行われた。

午前九時五十分、第二

駐車場で出火を発見した

神職が社務所に通報、更

に社務所から

一一九番に通

報。職員は直ち

に火元に駆けつ

け、巫女・女性

職員と女性消

防団はバケツリレーによ

る初期消火にあたる。引

き続いて神職・管理員が

消防ホースを延ばし地元

消防団と共に放水による

消火活動にあたった。

更に強風により祈願殿

に飛び火した想定で、午

前十時、宗像地区消防本

部・宗像市消防団の各消

防車両がサイレンを鳴ら

し第一駐車場に集結。各

隊は祈願殿に向かい一斉

放水を開始して消火活動

が繰り広げられた。

訓練終了後に参加者は

第一駐車場に整列、宗像

地区消防本部消防長門脇

豊氏、宗像市長谷井博美

氏による講評、続いて葦

津権宮司が防火訓練の御

礼挨拶を行い、訓練が無

事終了した。

同日午後一時には宗像

消防署神湊出張所の指導

による救命講習を清明殿

にて開催、AED(自動体

外式除細動器)、心肺蘇

生法、水消火器による消

火訓練を約一時間ご指導

いただいた。

文化財防火デーは、昭

和二十四年一月二十六日、

法隆寺金堂の壁画焼損を

契機に昭和三十年に制定。

以来、この時期には全国

の関係各機関が協力して

防火運動をすすめている。

当大社では「昭和の大

造営」を契機に昭和

四十七年より毎年実施し

て今年で四十三回目を迎

えた。貴重な御社殿・文

化財を守り伝えるため、

職員の意識を高める良き

訓練となった。



一斉放水(祈願殿にて)



巫女・女性消防団による水消火器訓練



神職と消防団による消火



救命講習



訓練後 講評・挨拶

平成二十九年 海洋神事奉賛会 初会合

一月二十七日、宗像大社海洋神事奉賛会の初会合が中村忠彦会長、沖中両宮奉賛会沖西敏明会長を始め各漁協支所代表者六名出席のもと開催された。午前十一時三十分より、本殿にて大漁祈願祭を斎行、その後斎館にて、若布献上と秋季大祭海上神幸について会議を行った。

宮中への若布の献上は、



若布献上・空港での手渡式

例年宮司と随行神職一名、漁協本所・各支所から推薦された二名の計四名で参内しており、本年の献上者は、葦津宮司と日高権禰宜、また鐘崎本所・大島支所より一名ずつ選定いただく事が決定した。そして、若布育成関係者より現時点での育成状況が報告され、本年は順調に生育していることから三月中の献上が決定した。

次に海上神幸(みあれ祭)について審議され、安全な海上神幸の為に隊列の周知徹底が確認された。また平成二十九年の「第三十七回豊かな海づくり大会」が宗像で開催されるにあたり、海上神幸を行うため漁協との協力をしていくこととなり会議は終了した。

東京・明治記念館にて宗像PR交流会を開催

二月七日、明治記念館(東京都)において、宗像PR交流会 in 東京2017が宗像市、宗像観光協会の主催で開催された。この会は、鐘崎天然とらふくフェア in 東京2017との協同開催であり、宗像PR交流会の主催者の谷井博美宗像市長、中村忠彦ふくフェア



実行委員長(宗像漁業協同組合長)のほか、世界文化遺産の価値証明等に携わった専門家や情報発信力の高い文化人やメディア、企業など約三五〇人が明治記念館に集まった。会場内には宗像市赤間の勝屋酒造合名会社や明太子販売店の「海千」が特設ブースを構え、明治記念館の料理長が調理したふく料理とともに、参加者に宗像の食材をPRした。

交流会のなかで葦津宮司が挨拶し、世界文化遺産に登録されるまでの予定や、当社の祭事予定などを参加した人等に説明した。

交流会の最後には食材がなくなるほどで、これから宗像の食材、天然とらふくの供給拡大が期待される。



挨拶をする葦津宮司



時満ちて道ひらく

勅使館新築工事に先立ち、地鎮祭齋行

造営日記 31

工事業者については左記の通りである。

- ◆設計監理・種村強建築設計
- ◆施 工・溝江建設株式会社
- ◆工 期・平成二十九年

二月～九月(八ヶ月)

二月一日午後二時より、勅使館新築工事に伴う地鎮祭を齋行した。当日は、宮司以下職員、設計監理者、工事請負業者など約二十名の参列のもと、これから始まる工事の安全を祈念した。新たに築く勅使館は、従前と同様に主に賓客の接遇に使用される。



御造営奉賛者御芳名

(平成二十九年二月)
(順不同・敬称略)

五〇、〇〇〇円	柳川市 宮崎チヅヨ	神戸市 田中 和也	北九州市 竹森美智子
三〇、〇〇〇円	福津市 川野 翼	下関市 三井 俊幸	北九州市 佐藤 千春
一〇、〇〇〇円	市川市 岡本 均	世田谷区 竹内 一暁	山陽小野田市 月村 敏章
	大川市 中村 光利	中間市 高島 広子	田川市 樽本 義和
	北九州市 土谷 ゆみ	名古屋市 小出恵美子	筑後市 戸上 保子
	北九州市 中尾 健哉	名古屋市 小出 彩	中野区 川村真恵子
	北九州市 杉浦 純子	福岡市 橋本 順子	直方市 下坂本 純
	田川郡 吉田 桃平	福岡市 瀬戸 篤	福岡市 大川内雅子
	中間市 森 伸介	福岡市 内山 希代	福岡市 山内 健嗣
	宗像市 林田 勇歩	福岡市 本間 千佳	福岡市 富永 智子
	宗像市 中西 常道	宗像市 城谷 和彦	福岡市 福ヶ迫道真
五、〇〇〇円	大阪府 福地 昭義	宗像市 小野 稔	福岡市 西久保 壘
	遠賀郡 川淵きよ美	宗像市 土谷 理恵	福岡市 福田 衣里
	遠賀郡 川淵 孝明	大牟田市 猿渡るみこ	福岡市 橋本 哲也
	春日市 大楠普一郎	北九州市 中村 卓也	福岡市 田中 将文
	春日市 大楠理恵子	宮若市 有田 福雄	福岡市 堤 昌文
	河内長野市 鹿田 良一	宮若市 長浜 愛国	宗像市 野々下一郎
	北九州市 赤木 慶三	板橋区 築井 彩	宗像市 鷺津ハルミ
	北九州市 山口 展弘	うきは市 田中 博史	横浜市 松井志穂美
	北九州市 原 三代子	北九州市 松原 透	
	北九州市 堀江 和彦	北九州市 森 幸太郎	
	熊本市 大橋 朱佳	北九州市 川埜 和代	
	久留米市 馬場 崇仁		

特別寄稿

宗像の南坊流物語

宗像市茶道協会会長 南坊流理事 二代洗心庵 瀧口宗芳



宗像大社と南坊流は、昭和初期以来深い縁で結ばれています。私の旧家屋の奥に茶屋(洗心庵)があり、その戸袋棚に数冊の母の写真帳がありました。中に古い色褪せた一枚の白黒の写真が有り、数人の黒紋附着物姿の女性達が一人の紳士を中心に緊張した顔で写っていました。母の師匠の吉田ヨシノ(宗芳)先生、娘時代の母(宗孝)も居ます。皆、口を真一文

字に結び厳しい表情でした。母によれば、これは出光弘様の肝入りで昭和七年秋に吉田先生が初めて宗像大社拝殿で献茶された時の記念の写真だそうです。先生は久留米の実修女学校を卒業して宗像市赤間の吉田家に嫁入され、同女学校の創立者で南坊流宗匠の田中國雄先生に指導を受けられました。そして理事に進み多くの弟子を育てられました。母は若くして吉田先生入門し、一番弟子として先生引退後は理事に進み、宗像大社献茶式を引継ぎました。戦争中も継続したそうです。私は一連の経緯を(株)新出光の出光豊会長、出光芳秀社長にご報告し、主催者としての復帰をお願いしました。平成十九年の献茶式に出光豊会長



が臨席され、それ以後、後見して頂いています。現在は、南坊流会長・理事長、地元の宮内代議士、そして昨年黒田家藤香会副会長と、出光弘翁の郷土筑前の南坊流復活の熱意・御恩に答えるべく臨席されています。本年は献茶式八十五周年、一層の奉仕を誓っています。

春まつりの御案内

春季大祭を下記行事日程で斎行致しますので、御参拝下さいますよう御案内申し上げます。



主基地方風俗舞

- ◆3月31日(金) 午後 5 時 総社地主祭
午後 6 時 宵宮祭
- ◆4月 1 日(土) 午前11時 一日祭 (氏子奉幣・主基地方風俗舞・浦安舞)
- ◆4月 2 日(日) 午前11時 二日祭
午前11時40分 宗像護国神社春季大祭
高宮祭、第二宮・第三宮祭、交通安全講社祭

第六六七回

宗像大社歌会詠草

大西晶子選 毎月25日メット



宗像市 多禮 早川 祥三
「アオハタ」が赤旗あげるコーン缶キューピーはもう心うつろう
台風被害で「アオハタ」コーン缶制作を中止したキュー
ピー。赤旗より白旗にしたい。

北九州市 八幡西区 豊田 光子
視界みな曙色につつまれて旦は明けゆく二〇十七年
旦はあさと読むのだろう。希望に満ちた元旦の歌。新
年の表記は(二〇一七年)に。

宗像市 日の里 秋吉 嘉範
耳元でスーダラ節を聞きながら人工呼吸するおとおとよ
切ない状況だ。自解により(耳元で好きなスーダラ節
歌う人工呼吸器つける義弟に)。

宗像市 宮田 山本 静子
明けました酉の元旦コケッコ幼日ききいし雄鶏の声
初句切れの明るい歌。二句以下(酉年の元旦コケッコ
コーと時告げ鶏のなつかしき声)。

福津市 若木台 山崎 公俊
小春日に神苑にぎはふ辺津宮清明殿では短歌大会
作者は短歌大会実行委員。言葉を減らし(小春日を神
苑にぎはふ清明殿で短歌大会開かるる午後)。

宗像市 池田 森 龍子
新らしき布巾に変へてゆく年の風を聞きつつ蕎麦すすりをり
新しい布巾が清々しい。動詞を減らし三句以下(年越
しの蕎麦をすすり風を聞きつつ)。

宗像市 自由ヶ丘 萩原 勉
差別語と言われる一本足の案山子学校田に十基が並ぶ
(一本足の案山子)は差別語だ。学校田の古風な案山子
に差別語を思う正義感の強さ。

北九州市 門司区 北野カズミ
年ごとに文字のいろ変へ記しゆかばあでやかならむ十年日記
年の初めらしい日記の歌。十年後に華やぐ日記帳を
想像し楽しむ作者だろう。

宮若市 宮田 本田エリナ
北風や嵐をよけて門の陰小さき白梅早花開く
梅の初花を見つけた作者の感慨。二句(嵐とどかぬ)
結句は(初花)としたい。

宮若市 水原 吉崎美沙子
赤で待つフロントガラスをかすめ去る鷺怪鳥の双脚を持つ
窓をかすめた鷺の脚に注目した目が鋭い。三句以下
(かすめ飛ぶ鷺は怪鳥の)と。

宗像市 日の里 大和美由紀
穏やかな日和授かる元旦にかすかに揺るる日の丸の旗
穏やかな日和の歌だが、国の先行きにかすかな懸念
を持つ作者であるようにも読める。

◆選者詠
帰りゆく母に手をふる夢に覚むこたふる母は世にあらざるを
かをりある花をこのみし父なりき二月は庭の沈丁花待ち

第六四〇回

俳句作品集

宗像市 多禮 早川 祥三
ひとしれず種をこぼして冬枯る

編集後記

三月十一日、東日本大震災から六年が経つ。時の経過とともに、日常を取り戻すことができている人も多い反面、避難生活を余儀なくされている方はまだまだ大勢います。被災地の一丁目でも早い復興を心よりお祈りいたします。当時、私は大学在学中でした。首都圏の交通網はすぐにストップ。バス停やタクシー乗り場は列を成す人々、駅の改札に殺到する人々。私も深夜まで家に帰ることができませんでした。連続する余震や日常から非日常へ変わってしまったときの恐怖、このような時ほど自然の驚異に対しての人間の無力さというものを感ずる瞬間はありませんでした。抗うことのできない自然に対する畏敬の念、自然のもたらしてくれる恵みに対しての感謝の念が神道の起源といわれています。自然の巨若や大木に神を見出して祭祀をする、それが学術的に証明されたのが沖ノ島です。神道の起源を残す沖ノ島に「目下句より勤務へ行つてまいります。神明奉仕はもとより、神道の起源に抱かれて自分を顧みたいと思います。(黒)

発行所 宗像大社事務所・宗像会
住所 所 千八一一三五〇五
福岡県宗像市田島三三三
電話 (〇九四〇)六二一三三二一(代)
発行人 葦津幹之
編集人 大塚・鈴木・黒神
制作・印刷 ゼネラルアサヒ

3月祭事暦

- 1・15日 月次祭 午前10時～ 高宮祭 宗像護国神社(1日)
第二宮・第三宮祭 総社祭
午前11時～ 浦安舞奉奏(1日) 豊栄舞奉奏(15日)
- 4日 氏貞公墓前祭 午前11時～ 於=氏貞公墓前 (宗像市上八) 本年は仏式で斎行
- 19日 松尾神社祭 午前11時～ 於=境内松尾神社
- 20日 皇霊殿遙拝式 午前10時～